

子どもたちの地域活動や感動体験等に関する調査研究

斎藤 哲 瑯*・藤原 昌 樹**

Investigation Research about the Social Activities and Impressive Experience in the Children's

Tetsuro SAITO and Masaki FUJIWARA

要 旨

第15期中央教育審議会は、「21世紀を展望したわが国の教育の在り方について」の答申の中で、『今後における教育の在り方として、「ゆとり」の中で子どもたちに生きる力を育んでいくことが基本である』と述べている。

今の子どもたちは、「ゆとり」のない忙しい生活がストレスとなって、「夜眠れない」「食欲がない」など身体的な症状を訴える者が増加してきている状況にある。そして、人間関係の難しさなどもあって、「いじめ」や「不登校」などの問題行動へとつながっているものと考えられる。

そこで本研究では、今の子どもたちの生活の様子を探りながら、「感動」や「感性」などについての調査研究を行い、今後の子どもたちの健全育成に必要な資料を得ようと考えた。

キーワード：子ども，体験活動，感動体験

はじめに

最近、子どもたちの自立心，思いやり，社会性，創造性，決断力，責任感などの欠如に加えて，いじめ，不登校はもとより自殺，殺人などが大きな社会問題となってきた。これらは，大人の価値観に縛られた生活に対する子どもたちの抵抗であり，このような窒息寸前の状態から一刻も早く逃れたいとするあがきではなかろうか。

*教授 生涯学習学・教育社会学

**講師 スポーツ社会学・余暇社会学

子どもたちの日常生活は、家庭、学校、塾、ゲームセンターなどの狭い空間の中で行われていることから、生活体験、社会体験、自然体験などが不足し、「感情の希薄化」などに繋がっていると考えられる。特に、「感動」「感激」「感謝」などの「感」が感じられない社会は、決して豊かで暮らしやすい成熟した社会とはいえないであろう。今、私たちは「物の豊かさから、心の豊かさへ」と生活の有り様を変えなければと気づき始め、子どもたちには「ジコチュウ（自分中心）」ではなく「思いやりの心を持った温かい人間として育ててほしい」と、切に願っているところである。

そこで今回、最近の子どもたちはどんなところに嬉しさや楽しみを見だし、また、どんなことに悲しみや苦しみなどを感じているのかを調べるため、小学5年生と中学2年生を対象に「感動体験に関する調査」を計画した。まず、自由記述方式の事前調査を行ってみたところ、小学生の一部から「感動」の意味が分からないとの質問が出たのである。

そのため今回の調査は、自由記述方式を避け、地域社会の現状を把握するとともに、「とてもうれしいと思ったこと」「とても楽しいと思ったこと」などの10項目についての感動に関する調査を行うことにしたのである。

調査方法及び調査対象等

(1) 時期、対象、方法

本調査は、平成12年11月、千葉県、埼玉県、群馬県、広島県の小学5年生及び中学2年生を対象に、24校に依頼した。調査対象校は、学校規模を勘案しながら回収率をあげるため研究スタッフの仲間をとおして各学校に依頼し、無記名方式によるアンケート調査方法をとった。

(2) 回答者の内訳

調査票の回収状況は下表のとおりとなった。学校数の内訳は、小学校13校、中学校9校の合計22校から2,518名の回答を得た。

県別学校数の内訳は、【群馬県】小学校2校、中学校0校。【埼玉県】小学校2校、中学校0校。【千葉県】小学校5校、中学校5校。【広島県】小学校4校、中学校4校、である。

子どもたちの地域活動や感動体験等に関する調査研究

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問1. 都道府県別	合 計	2518 100.0	1041 41.3	1477 58.7	2516 100.0	1284 51.0	1232 49.0
	千葉県	919 100.0	233 25.4	686 74.6	919 100.0	461 50.2	458 49.8
	埼玉県	182 100.0	182 100.0	— —	182 100.0	107 58.8	75 41.2
	群馬県	159 100.0	159 100.0	— —	159 100.0	75 47.2	84 52.8
	広島県	1258 100.0	467 37.1	791 62.9	1256 100.0	641 51.0	615 49.0

回答者の特質

(1) 諸活動への参加状況

まず、子どもたちの学校での部活動や地域活動への参加状況について調べてみた。その結果、全体としては、「学校の部活動に参加」が最も多く 83.1 %、次いで「地域のスポーツ活動」19.5 %、「子ども会活動」18.1 %となっているが、「地域の文化的活動」は最も低く 5.7 %となった。

これを小中学生別に見ていくと、小学生では「学校の部活動に参加」60.5 %、「子ども会活動に参加」43.6 %、「地域のスポーツ活動に参加」36.5 %となっているのに比べて、中学生では、「地域のスポーツ活動に参加」は 8.9 %、「学校の部活動に参加」97.1 %となり、地域活動に参加しているのは小学生に多く、中学生は圧倒的に「部活」が中心となっていることがわかる。

また、男女間においてはあまり顕著な差は出ていないが、「地域のスポーツ活動」では男子 27.1 %に比べ女子 11.4 %と、この活動においては差が見られた。

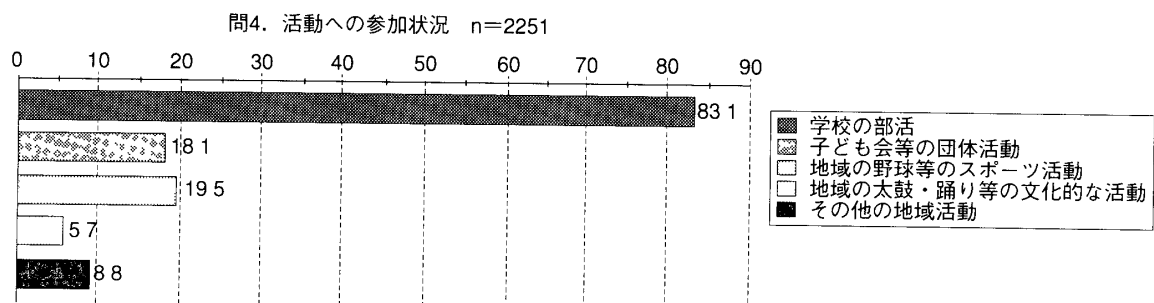


図1 諸活動への参加状況

表1 学年別・性別にみた活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問4. 活動への参 加状況	合 計	2251 100.0	864 100.0	1387 100.0	2251 100.0	1156 100.0	1095 100.0
	学校の部活	1870 83.1	523 60.5	1347 97.1	1870 83.1	915 79.2	955 87.2
	子ども会等の団体 活動	408 18.1	377 43.6	31 2.2	408 18.1	210 18.2	198 18.1
	地域の野球等のス ポーツ活動	438 19.5	315 36.5	123 8.9	438 19.5	313 27.1	125 11.4
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	128 5.7	97 11.2	31 2.2	128 5.7	46 4.0	82 7.5
	その他の地域活動	199 8.8	132 15.3	67 4.8	199 8.8	107 9.3	92 8.4

(2) 活動体験の状況

ここでは、今の子どもたちの生活体験、社会体験、自然体験などに関する16項目について、「全然ない」「あまりない」「少しある」「何回もある」の4カテゴリーから回答を求めた。

表2 各種体験活動の状況

	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5～6回 ある	計
1. 友だちと寝泊りしたこと	23.0	29.1	22.5	25.3	100.0
2. 美術館・博物館、動物園等に行ったこと	3.9	19.5	29.9	46.7	100.0
3. ボランティア活動をしたこと	30.3	38.9	18.3	12.5	100.0
4. オモチャや遊び道具などを自分で作ったこと	18.3	39.4	22.2	20.2	100.0
5. 家族や他人の病人を看病したこと	23.8	39.6	22.4	14.2	100.0
6. 小さい子と遊んだこと	6.0	17.6	20.2	56.3	100.0
7. お年寄りと遊んだり、お世話をしたこと	27.8	36.8	17.8	17.6	100.0
8. 山に登ったこと	13.2	36.5	24.6	25.7	100.0
9. 海や川で遊んだり泳いだりしたこと	3.7	15.1	20.8	60.4	100.0
10. 草花を育てたこと	8.6	30.2	28.1	33.1	100.0
11. ペットを飼ったこと	17.7	31.2	20.3	30.8	100.0
12. 虫を捕まえたこと	13.0	23.9	17.1	46.1	100.0
13. キャンプをしたこと	17.9	36.8	20.0	25.3	100.0
14. 本を読むこと	2.8	10.3	14.1	72.8	100.0
15. 学校以外の友だちと遊ぶこと	12.4	20.9	16.3	50.4	100.0
16. 友だちとケンかをしたこと	5.1	20.5	23.3	51.2	100.0

ア. 活動体験の全体像

まず、「全然ない」の回答値から比率の高い順に挙げていくと、①「3. ボランティア活動をしたことが全然ない」30.3%，②「7. お年寄りと遊んだり，お世話をしたことが全然ない」27.3%，③「5. 家族や他人の病人を看病したことが全然ない」23.8%，④「1. 友だちと寝泊りしたことが全然ない」23.0%などとなり，人間関係に関する内容の経験不足が浮かび上がってきた。

また，「5～6回ある」の回答値から日頃の積極的な活動状況を見てみると，①「14.本を読むことがある」72.8%，以下，②「9. 海や川で遊んだり泳いだりしたことがある」60.4%，③「6. 小さい子と遊んだことがある」56.3%，④「16. 友だちとケンかをしたことがある」51.2%，⑤「15. 学校以外の友だちと遊んだことがある」50.4%と続き，過半数に達しているのはこの5項目だけであった。

イ. 内容別にみた活動体験の状況

①友だちと寝泊りをしたこと

最近，子どもたちの友だち関係の希薄化が指摘されていることから，ここでは，「友だちとの寝泊り経験」について質問してみた。その結果，全体では「1～2回ある」29.1%，「5回以上ある」25.3%，「全然ない」23.0%，「3～4回ある」22.5%とほぼ4分の1ずつになっていることが明らかになった。

この内訳を見ていくと，小学生では「1～2回ある」29.1%，「3～4回ある」25.3%，「5回以上ある」21.4%となっているのに対して，中学生では「5回以上ある」が最も高く28.1%と小学生とは違った傾向がみられる。

また性別では，「全然ない」が男子の27.4%に対して，女子は18.5%とその差が出ているのである。

そこで，「友だちとの寝泊り経験」と「地域活動への参加の有無」との関係を見るため，それぞれをクロス集計してみた（下表）。その結果，「友だちと寝泊りしたことが全然ない」の数値と，「寝泊り経験が1回以上ある」との数値とを比較してみても明らかなように，団体活動に参加している子どもたちの方が，寝泊り経験の比率が高くなっていることがわかる。ただ，「5回以上ある」を見ていくと，最も比率の高い「スポーツ活動」でも32.0%であることからすると，今の子どもたちの「友だちとの寝泊り経験」は決して多いとは言えないようである。

表3 友だちと寝泊りしたこと × 活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問5-1. 友だちと寝泊りしたこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上
問4. 活動への参 加状況	合 計	2243 100.0	511 22.8	650 29.0	511 22.8	571 25.5
	学校の部活	1864 100.0	437 23.4	520 27.9	424 22.7	483 25.9
	子ども会等の団体 活動	404 100.0	87 21.5	140 34.7	84 20.8	93 23.0
	地域の野球等のス ポーツ活動	438 100.0	80 18.3	111 25.3	107 24.4	140 32.0
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	127 100.0	28 22.0	31 24.4	33 26.0	35 27.6
	その他の地域活動	197 100.0	39 19.8	60 30.5	49 24.9	49 24.9

②美術館や博物館，動物園に行ったこと

地域にある美術館や博物館等への見学については，全体では「5回以上ある」が46.7%と最も高くなっている。次いで「3～4回ある」が29.9%，「1～2回ある」が19.5%となっており，「全然ない」の3.9%と比べるとほとんどの子どもたちが高い頻度で「行ったことがある」と答えている。その内訳を，「全然ない」と回答したものについて見ていくと，中学生と男子に未経験者が多いが，「5回以上ある」と回答した者では，小学生と女子に行った経験者が多くなっていることがわかる。

表4 美術館・博物館，動物園等に行ったこと

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問5-2. 美術館や博 物館，動物 園に行った こと	合 計	2503 100.0	1030 100.0	1473 100.0	2501 100.0	1274 100.0	1227 100.0
	全然ない	97 3.9	18 1.7	79 5.4	97 3.9	59 4.6	38 3.1
	1～2回ある	489 19.5	136 13.2	353 24.0	489 19.6	295 23.2	194 15.8
	3～4回ある	749 29.9	309 30.0	440 29.9	749 29.9	395 31.0	354 28.9
	5回以上ある	1168 46.7	567 55.0	601 40.8	1166 46.6	525 41.2	641 52.2

③ボランティア活動をしたこと

ボランティア活動については、「全然ない」が30.3 %であり、全体の7割以上は1回以上のボランティア活動を経験していることがわかった。経験者の内訳は、「1～2回ある」38.9 %、「3～4回ある」18.3 %、「5回以上ある」12.5 %となり、回数から見ていくと、必ずしもボランティア活動が積極的とは言えない状況である。「5回以上経験がある」は、小学生と男子に若干経験の比率が高いことがわかる。

そこで、「お年よりのお世話」などをすることと、ボランティア活動との関係を調べるため、クロス集計を試みた。その結果は下表のとおりであるが、「お年よりのお世話をしたことが全然ないと答えた者で、ボランティア活動を5回以上経験がある」の回答値は6.5 %であるのに対して、「お年よりのお世話をしたことが5回以上あり、さらにボランティア活動を5回以上経験がある」と答えた者は28.4 %となり、明らかに両者の関係はありそうな結果となった。

表5 ボランティア活動 × お年よりと遊んだりお世話をしたこと

上 段：度 数 下 段： %		問5-3. ボランティア活動をしたこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上 ある
問5-7. お年寄りと 遊んだり、 お世話をし たこと	合 計	2446 100.0	738 30.2	953 39.0	450 18.4	305 12.5
	全然ない	681 100.0	349 51.2	226 33.2	62 9.1	44 6.5
	1～2回ある	899 100.0	246 27.4	403 44.8	173 19.2	77 8.6
	3～4回ある	437 100.0	77 17.6	173 39.6	125 28.6	62 14.2
	5回以上ある	429 100.0	66 15.4	151 35.2	90 21.0	122 28.4

④おもちゃや遊び道具などを自分で作ったこと

ここでは「おもちゃや遊び道具などを自分で作ったことがあるかどうか」について調べてみた。その結果、比率の高い順に「1～2回ある」39.4 %、「3～4回ある」22.2 %、「5回以上ある」20.2 %、「全然ない」18.3 %と続き、8割以上の子どもたちは「おもちゃなどを作ったことがある」と回答している。ただ、「5回以上ある」と答えた者は全体の2割にしかならなかった。未経験者の内訳では、中学生と女子に未経験が多いことがわかった。

ここでも、「地域活動への参加」と「おもちゃ作り」との関係を見てみると（下表）、先ず「おもちゃなどを作ったことが全然ない」については、「学校の部活」の19.5 %が他の「地域

表6 オモチャなどを自分で作ったこと × 地域活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問5-4. オモチャや遊び道具を自分で作ったこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上 ある
問4. 活動への参 加状況	合 計	2236 100.0	400 17.9	904 40.4	502 22.5	430 19.2
	学校の部活	1861 100.0	362 19.5	778 41.8	400 21.5	321 17.2
	子ども会等の団体 活動	406 100.0	35 8.6	146 36.0	112 27.6	113 27.8
	地域の野球等のス ポーツ活動	435 100.0	57 13.1	143 32.9	98 22.5	137 31.5
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	127 100.0	16 12.6	39 30.7	36 28.3	36 28.3
	その他の地域活動	198 100.0	15 7.6	71 35.9	52 26.3	60 30.3

団体活動」よりも高く、さらには「オモチャの手づくり経験が5回以上ある」の回答値からは、「学校の部活」の17.2%が他の地域団体活動に比べて低くなっていることから、「オモチャや遊び道具などを自分で作る」といった機会は、部活よりも地域活動において経験する子どもたちが多い傾向にあることがわかった。

⑤家族や他人の看病をしたこと

子どもたちの「看病経験」についての調べでは、「全然ない」が23.8%となった。全体では7割強の子どもたちは「看病経験がある」と答えているが、その内訳を見ていくと、「1～2回ある」39.6%「3～4回ある」22.4%、「5回以上ある」14.2%となり、経験があるとはいえ

表7 家族や他人の看病をしたこと

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問5-5. 家族や他人 の看病をし たこと	合 計	2493 100.0	1023 100.0	1470 100.0	2491 100.0	1266 100.0	1225 100.0
	全然ない	593 23.8	240 23.5	353 24.0	592 23.8	390 30.8	202 16.5
	1～2回ある	987 39.6	374 36.6	613 41.7	987 39.6	514 40.6	473 38.6
	3～4回ある	558 22.4	229 22.4	329 22.4	557 22.4	228 18.0	329 26.9
	5回以上ある	355 14.2	180 17.6	175 11.9	355 14.3	134 10.6	221 18.0

「1～2回」が最も多いようで、回数が上がるにしたがって数値が低くなっていることがわかる。「全然ない」と回答した者の内訳は、小中学生の差は見られないが、女子に比べて男子の未経験者が多いことが明らかになった。

⑥小さい子と遊んだこと

小さい子と遊んだ経験やお世話などの経験についての表では、「5回以上ある」が56.3%と最も高く、次いで「3～4回ある」の20.2%、「1～2回ある」17.6%、「全然ない」6.0%となり、多くの子どもたちは「小さい子と遊んだ経験がある」と答えている。一方、「全然ない」が、小学生の3.3%に比べて中学生は7.9%、男子9.2%に対して女子は2.7%となり、未経験者は中学生と男子に多いことがわかる。

また「5回以上ある」の回答値からは、小学生67.1%、中学生48.7%、男子45.7%、女子67.2%となり、性別においては明らかに男子に比べて女子に経験者の比率が高いのである。

さらに、「地域活動への参加」状況は、小さい子と遊ぶ回数が増えるほどその数値が高くなってきており、地域活動は、異年齢の交流促進にも役立っていることがわかる。

表8 小さい子と遊んだこと × 地域活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問5-6. 小さい子と遊んだこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上 ある
問4. 活動への参 加状況	合 計	2230 100.0	133 6.0	394 17.7	461 20.7	1242 55.7
	学校の部活	1852 100.0	119 6.4	345 18.6	394 21.3	994 53.7
	子ども会等の団体 活動	402 100.0	14 3.5	45 11.2	70 17.4	273 67.9
	地域の野球等のス ポーツ活動	434 100.0	19 4.4	65 15.0	78 18.0	272 62.7
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	125 100.0	5 4.0	10 8.0	17 13.6	93 74.4
	その他の地域活動	198 100.0	4 2.0	31 15.7	31 15.7	132 66.7

⑦お年よりと遊んだりお世話をしたこと

「お年寄りと遊んだりお世話をしたことの経験の有無」については、全体では「1～2回ある」の36.8%に続いて「全然ない」が27.8%と2番目に高くなっているのである。つまり3人に1人はお年寄りとの触れ合いがないと答え、特に「全然ない」と回答しているのは小学生

表9 お年寄りと遊んだりお世話をしたこと

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問5-7. お年寄りと 遊んだり、 お世話をし たこと	合 計	2486 100.0	1023 100.0	1463 100.0	2484 100.0	1265 100.0	1219 100.0
	全然ない	692 27.8	236 23.1	456 31.2	692 27.9	415 32.8	277 22.7
	1～2回ある	914 36.8	355 34.7	559 38.2	914 36.8	455 36.0	459 37.7
	3～4回ある	443 17.8	201 19.6	242 16.5	442 17.8	194 15.3	248 20.3
	5回以上ある	437 17.6	231 22.6	206 14.1	436 17.6	201 15.9	235 19.3

よりも中学生に、女子よりも男子に顕著に表れていることがわかる。

⑧山に登ったこと

次に、自然体験に関する内容として、「山登りの経験」について質問してみた。その結果、全体では「1～2回ある」36.5%、「5回以上ある」25.7%、「3～4回ある」24.6%、「全然ない」13.2%の順になっており、8割以上の子どもは「山に登った経験がある」と答えている。「全然ない」は、小学生と女子に未経験者が多いことが明らかになってきた。

ここでも、「地域活動」との関係について見ていくと、「学校の部活」を含めて全ての地域活動における数値は、山登りの回数が増えるほど高くなり、団体の活動の一環として「山登り」

表10 山に登ったこと × 地域活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問5-8. 山に登ったこと				
		合 計	全然ない	1～2回あ る	3～4回 ある	5回以上 ある
問4. 活動への参 加状況	合 計	2236 100.0	295 13.2	809 36.2	557 24.9	575 25.7
	学校の部活	1859 100.0	264 14.2	694 37.3	469 25.2	432 23.2
	子ども会等の団体 活動	405 100.0	59 14.6	114 28.1	95 23.5	137 33.8
	地域の野球等のス ポーツ活動	436 100.0	53 12.2	124 28.4	110 25.2	149 34.2
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	127 100.0	18 14.2	36 28.3	25 19.7	48 37.8
	その他の地域活動	198 100.0	24 12.1	50 25.3	52 26.3	72 36.4

が多く取り入れられていることがわかる。なかでも、「学校の部活」は他の団体活動に比べて数値が低いのは、活動エリアから言ってもやむを得ないことといえよう。

⑨海や川で遊んだり泳いだりしたこと

さらに、「海や川などで遊んだり泳いだりしたこと」についての質問では、全体では「5回以上ある」が60.4%と最も高く、次いで「3～4回ある」の20.8%、「1～2回ある」15.1%となり、「全然ない」はわずかの3.7%であった。小中学生，男女別の顕著な差は見られず，ほとんどの子どもたちが海や川などで泳ぐ経験はしているようである。そして「地域活動に参加している子どもは，海や川などで泳いだりすることの頻度が多い」のである。

表11 海や川などで泳いだこと × 地域活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問5-9. 海や川で遊んだり泳いだりしたこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上 ある
問4. 活動への参 加状況	合 計	2232 100.0	83 3.7	341 15.3	459 20.6	1349 60.4
	学校の部活	1856 100.0	73 3.9	297 16.0	385 20.7	1101 59.3
	子ども会等の団体 活動	403 100.0	14 3.5	46 11.4	74 18.4	269 66.7
	地域の野球等のス ポーツ活動	435 100.0	7 1.6	60 13.8	87 20.0	281 64.6
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	127 100.0	6 4.7	10 7.9	22 17.3	89 70.1
	その他の地域活動	196 100.0	7 3.6	22 11.2	39 19.9	128 65.3

⑩草花を育てたこと

「草花の生育経験」については，全体では「5回以上ある」が33.1%と最も高く，次いで「1～2回ある」30.2%，「3～4回ある」28.1%となり，ほとんどの子どもたちは「草花を育てた経験がある」と答えている。特に，中学生よりも小学生に，男子に比べて女子に生育経験の比率が高いことがよくわかる。

⑪ペットを飼ったこと

多少の差はあっても動物の飼育経験は80%を超えていることがわかる。なお，「全然ない」は17.7%であった。

表12 草花を育てたこと

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問5-10. 草花を育て たこと	合 計	2488 100.0	1029 100.0	1459 100.0	2486 100.0	1264 100.0	1222 100.0
	全然ない	214 8.6	51 5.0	163 11.2	214 8.6	172 13.6	42 3.4
	1～2回ある	752 30.2	252 24.5	500 34.3	752 30.2	463 36.6	289 23.6
	3～4回ある	698 28.1	283 27.5	415 28.4	697 28.0	328 25.9	369 30.2
	5回以上ある	824 33.1	443 43.1	381 26.1	823 33.1	301 23.8	522 42.7

表13 ペットを飼ったこと

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問5-11. ペットを飼 ったこと	合 計	2499 100.0	1027 100.0	1472 100.0	2497 100.0	1273 100.0	1224 100.0
	全然ない	443 17.7	176 17.1	267 18.1	443 17.7	262 20.6	181 14.8
	1～2回ある	780 31.2	307 29.9	473 32.1	779 31.2	408 32.1	371 30.3
	3～4回ある	507 20.3	205 20.0	302 20.5	507 20.3	247 19.4	260 21.2
	5回以上ある	769 30.8	339 33.0	430 29.2	768 30.8	356 28.0	412 33.7

その内訳を見ていくと、小中学生の比較ではあまり差はないが、男女別では、男子に比べて女子に経験者が多いことがわかる。

⑫虫を捕まえたこと

自然体験や屋外遊びの実状を把握する一つとして、「虫を捕まえたことがあるか」と質問してみた。その結果、全体として「5回以上ある」が46.1%と最も高く、これに「1回以上ある」を加えると、「虫を捕まえた経験がある」とする子どもは、87%に達するのである。その一方で、「全然ない」と答えた子どもが13%いるのも事実である。

小中学生の比較では、「全然ない」については、小学生が9.4%なのに対して中学生が

子どもたちの地域活動や感動体験等に関する調査研究

表14 虫を捕まえたこと

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問5-12. 虫を捕まえたこと	合 計	2492 100.0	1026 100.0	1466 100.0	2490 100.0	1270 100.0	1220 100.0
	全然ない	323 13.0	96 9.4	227 15.5	323 13.0	101 8.0	222 18.2
	1～2回ある	596 23.9	224 21.8	372 25.4	596 23.9	206 16.2	390 32.0
	3～4回ある	425 17.1	163 15.9	262 17.9	425 17.1	199 15.7	226 18.5
	5回以上ある	1148 46.1	543 52.9	605 41.3	1146 46.0	764 60.2	382 31.3

15.5 %と高くなっており、中学生の屋外での活動不足が伺えるし、男女別には、経験の有無やその頻度に大きな違いが出ていることがわかる。

⑬キャンプをしたこと

次に、「キャンプ経験」の実態を調べてみた。その結果、全体としては「1～2回ある」36.8 %、「5回以上ある」25.3 %、「3～4回ある」20.0 %、「全然ない」17.9 %となっており、8割以上がキャンプ経験者であることが明らかになった。ただ、キャンプに限っては、小中学生別、男女別には顕著な差は見られなかった。

また、「キャンプ活動」と「地域活動」との関係については、「山登り」や「海や川で泳いだ

表15 キャンプをしたこと × 地域活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問5-13. キャンプをしたこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上 ある
問4. 活動への参 加状況	合 計	2234 100.0	374 16.7	838 37.5	455 20.4	567 25.4
	学校の部活	1856 100.0	311 16.8	707 38.1	384 20.7	454 24.5
	子ども会等の団体 活動	405 100.0	54 13.3	162 40.4	75 18.5	114 28.1
	地域の野球等のス ポーツ活動	435 100.0	46 10.6	150 34.5	97 22.3	142 32.6
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	126 100.0	27 21.4	43 34.1	23 18.3	33 26.2
	その他の地域活動	199 100.0	25 12.6	78 39.2	33 16.6	63 31.7

こと」などに比べて「全然ない」の比率が比較的高いことがわかる。とはいえ「地域活動等に参加している子どもたちのキャンプ活動経験者は8割かそれ以上に達しているのである。

⑭本を読むこと

「読書」についての質問では、全体では「5回以上ある」が72.8%と最も高く、次いで「3～4回ある」の14.1%、「1～2回ある」10.3%となっており、ほとんどの子どもは「読書の経験がある」と回答している。わずかではあるが「全然ない」が2.8%いた。小中学生別、男女別には顕著な差は表れなかった。

表16 本を読むこと

上 段：度 数 下 段： %		問2. 学年別			問3. 性 別		
		合 計	小学5年生	中学2年生	合 計	男 子	女 子
問5-14. 本を読むこと	合 計	2493 100.0	1031 100.0	1462 100.0	2491 100.0	1268 100.0	1223 100.0
	全然ない	69 2.8	12 1.2	57 3.9	69 2.8	46 3.6	23 1.9
	1～2回ある	258 10.3	81 7.9	177 12.1	258 10.4	140 11.0	118 9.6
	3～4回ある	352 14.1	158 15.3	194 13.3	352 14.1	198 15.6	154 12.6
	5回以上ある	1814 72.8	780 75.7	1034 70.7	1812 72.7	984 69.7	928 75.9

⑮学校以外の友だちと遊ぶこと

子どもたちにとって重要なキーワードは、「友だち」「遊び」であることから、「自分の学校以外の友だち関係」について調べてみた。その結果、全体では「5回以上ある」が50.4%と最も高く、以下、「1～2回ある」20.9%、「3～4回ある」16.3%、「全然ない」12.4%と続いている。また、「全然ない」の回答からは、小学生と男子に比率が高いことがわかる。

そこで、「地域活動への参加状況」とクロス集計をしてみた。その結果は下表のようになったが「5回以上友だちと遊んだことがある」の回答値から見ていくと、最も比率が高いのが「地域の野球等のスポーツ活動」65.2%、以下、「その他の地域活動」64.3%、「子ども回答の団体活動」59.2%、「地域の太鼓、踊り等の文化活動」56.3%と続き、「学校の部活」の47.6%が最も低いことがわかった。

子どもたちの地域活動や感動体験等に関する調査研究

表 17 学校以外の友だちと遊ぶこと × 活動への参加状況

上 段：度 数 下 段： %		問 5-15. 学校以外の友だちと遊ぶこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上 ある
問 4. 活動への参 加状況	合 計	2230 100.0	275 12.3	471 21.1	367 16.5	1117 50.1
	学校の部活	1857 100.0	245 13.2	414 22.3	314 16.9	884 47.6
	子ども会等の団体 活動	402 100.0	35 8.7	64 15.9	65 16.2	238 59.2
	地域の野球等のス ポーツ活動	431 100.0	31 7.2	60 13.9	59 13.7	281 65.2
	地域の太鼓・踊り 等の文化的な活動	126 100.0	7 5.6	25 19.8	23 18.3	71 56.3
	その他の地域活動	196 100.0	15 7.7	30 15.3	25 12.8	126 64.3

⑩友だちとケンカをしたこと

次に、「友だちとケンカをしたこと」に関する質問では、全体では「5回以上ある」が51.2%と最も高くなっている。次いで、「3～4回ある」23.3%、「1～2回ある」20.5%となっているが、「ケンカをしたことが全然ない」が5.1%いることもわかった。

この内訳を見ていくと、「全然ない」では小学生3.3%、中学生6.3%、男子6.3%、女子3.8%と答え、「ケンカをしたことが全然ない」は小学生と女子にその比率が低いことがわかる。また、「5回以上ある」の回答値では、小学生56.9%、中学生47.2%、男子48.7%、女子53.8%となり、「ケンカをしたことが5回以上ある」と答えるものは、小学生と女子に多くな

表 18 友だちとケンカをしたこと × 学校以外の友だちと遊ぶこと

上 段：度 数 下 段： %		問 5-15. 学校以外の友だちと遊ぶこと				
		合 計	全然ない	1～2回 ある	3～4回 ある	5回以上 ある
問 5-16. 友だちとケ ンカをした こと	合 計	2487 100.0	309 12.4	519 20.9	404 16.2	1255 50.5
	全然ない	125 5.0	38 1.5	32 1.3	17 0.7	38 1.5
	1～2回ある	510 20.5	90 3.6	156 6.3	94 3.8	170 6.8
	3～4回ある	578 23.2	70 2.8	130 5.2	115 4.6	263 10.6
	5回以上ある	1274 51.2	111 4.5	201 8.1	178 7.2	784 31.5

っているのである。

そこで、「ケンカをしたこと」と「学校外の友だち関係」との関係を見ていくと、「友だちとケンカをしたことも、学校外の友だちと遊ぶこともない」の回答者は、全体の5.0%であるのに対して、「ケンカをしたことも、学校外の友だちと遊ぶことも5回以上ある」と答えるものは、31.5%になっているのである。その他の数値からも、「友だちとのケンカ」と「学校外の友だちと遊ぶ」との関係は、その頻度が多くなるにしたがって比率が高くなってきていることがわかる。

つまり、友だち関係を避けることによってケンカの頻度は低くなってくると言えそうであるが、ケンカを避けることによって、良い人間関係はできるのであろうか。関係がうまくいかなかった時の修復の手立てを学習することこそ必要といえるのではないだろうか。

「感動体験」の状況

これまでいくつかの項目についてはクロス集計を試みたその結果、地域活動や団体活動に参加している子どもたちは、団体活動を通して多くの人たちと触れあったり、自然体験等の機会が豊富に提供されていることがわかった。いずれにしても、今の子どもたちの体験不足は深刻な状況にあることから、積極的に生活体験、社会体験、自然体験、地域団体活動等への参加の機会を提供していくことが必要であり、そのことが「感動体験」につながっていくものと思われる。

ここでは、子どもたちの「感動体験」の実態を見ていくことにするが、「感動体験」に関するカテゴリ数39の中から、「5つまで選択」として回答を求めた。そのため、ここではその全てを載せることが困難なことから、それぞれのベスト10を取り上げて検証してみることにした。

①とてもうれしいと思ったこと

先ず、「うれしい」と感じる内容についてであるが、全体的に見て比率の高い順には、「新しい友だちができたこと」65.3%、「試合に勝ったこと」50.5%、「今まで出来なかったことが出来たこと」47.7%、「賞をとったこと」45.6%、「人に誉められたこと」44.7%などとなっているのである。

これを、小中学生別に比較してみると、「新しい友だちができたこと」「友だちと仲直りしたこと」「新しいものや珍しいものを発見したこと」は、ほぼ同数の割合の子どもが選択してい

表19 「とてもうれしい」と思ったこと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①新しい友だちができたこと	1625 (65.3)	68.7	62.9	57.6	73.2
②試合に勝ったこと	1256 (50.5)	43.3	55.5	58.2	42.4
③今までできなかったことができたこと	1187 (47.7)	45.1	49.6	46.2	49.2
④賞をとったこと	1134 (45.6)	49.6	42.7	44.1	47.1
⑤人にほめられたこと	1112 (44.7)	42.7	46.1	40.9	48.5
⑥友だちと仲直りをしたこと	846 (34.0)	35.4	33.0	29.3	38.8
⑦人から優しくしてもらったこと	544 (21.9)	18.8	24.0	15.7	28.3
⑧友だちと一緒に寝泊まりをしたこと	458 (18.4)	22.5	15.5	17.3	19.5
⑨家族で旅行に行ったこと	447 (18.0)	26.9	11.6	17.5	18.4
⑩新しいものや珍しいものを発見したこと	340 (13.7)	13.5	13.8	18.3	8.9
	2489 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

る。特に「新しい友だちができたこと」の項目については、小学生の65.3%、中学生の68.7%が選択しており、他の項目に比べて選択率が著しく高いことがわかる。また、「友だちと仲直りしたこと」の項目についても、小学生35.4%、中学生33.0%と3人にひとりの子どもが選んでいること併せてみても、子どもの生活の中では友だち関係が重要となっていることが読みとれる。

また、「試合に勝ったこと」では小学生43.3%、中学生55.5%となり、その差が12.2ポイントとなっているが、部活動体験が小学生よりも中学生の方が多いことによるものと考えられる。これとは対照的になるが、「家族で旅行に行ったこと」では、小学生26.9%、中学生11.6%となり、15.3ポイントほど小学生に多くなっているのである。

次に男女の比較をみると、「今までできなかったことができたこと」「賞をとったこと」「友だちと一緒に寝泊まりをしたこと」「家族で旅行に行ったこと」についてはほぼ同じ割合となっているが、「新しい友だちができたこと」「人にほめられたこと」「友だちと仲直りをしたこと」「人から優しくしてもらったこと」の項目では、男子より女子の選択率が顕著に高い。特に「新しい友だちができたこと」ではその差15.6ポイント、「人から優しくしてもらったこと」では12.6ポイントの開きがあり、男子よりも女子の方が「友だち関係」を重視していることがうかがえる。

逆に男子の比率が高い項目は、「試合に勝ったこと」(差15.8ポイント)「新しいものや珍しいものを発見したこと」(差9.4ポイント)であり、そのことは問4の「地域の野球・サッカーなどのスポーツ活動に参加」(男子27.1%、女子11.4%)の参加率からもこのような結果となることは当然と言えよう。そして、「新しいものや珍しいものを発見したこと」においても男子の方が高くなっているのである。

なお、上位10項目の中には表れていないが、「テレビゲームで」は、男子12.3％、女子2.1％となっており、その差は圧倒的に男子に高いのである。

②「とても楽しい」と思ったこと

次に、「とても悲しいと思ったこと」についてであるが、比率の高い順に見ていくと、「家族で旅行に行ったこと」47.9％、「友達と一緒に寝泊りをしたこと」43.1％、「漫画、アニメを見て」42.3％のようにになっている。

これを小中学生別に比較してみると、小学生では「家族で旅行に行ったこと」が54.7％とトップであるのに対して、中学生は「修学旅行や校外学習など」の45.9％が1位となっている。小学生5年生では「修学旅行や校外学習など」の項目が28.5％にしかならないのは、修学旅行の体験が少ないことが原因として挙げられよう。また中学生の「家族で旅行にいったこと」(43.0％)が小学生に比べて11.7ポイント低いのが特徴と言えよう。また、「魚釣りをしたこと」では小学生28.2％、中学生18.2％と小学生の方が10ポイント高くなっているのに対して、「映画・ドラマを見て」「音楽を聴いて」の項目については、中学生の方が小学生よりそれぞれ9.3ポイント、8.4ポイント高くなり、小中学生の差がみられる。

次に男女別にみると、「家族で旅行に行ったこと」「友だちと一緒に寝泊まりをしたこと」「修学旅行や校外学習など」の項目では女子の方が男子よりもそれぞれ16.2ポイント、19.6ポイント、15.3ポイント高く、男子に比べて女子の方が旅行等を楽しむ傾向がうかがえる。逆に「テレビゲームで」「魚釣りをしたこと」の項目では、男子の方が女子に比べてそれぞれ28.8ポイント、18.5ポイント高く、その違いをみることができる。「映画・ドラマを見て」「本を読んで」「音楽を聴いて」の項目については、男女差にほとんど差が見られない。

表20 「とても楽しい」と思ったこと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①家族で旅行に行ったこと	1181 (47.9)	54.7	43.0	39.9	56.1
②友だちと一緒に寝泊まりをしたこと	1063 (43.1)	40.6	44.9	33.5	53.1
③漫画・アニメを見て	1054 (42.7)	46.3	40.2	46.4	38.9
④テレビゲームで	964 (39.1)	42.5	36.7	53.3	24.5
⑤修学旅行や校外学習など	955 (38.7)	28.5	45.9	31.2	46.5
⑥映画・ドラマを見て	761 (30.9)	25.4	34.7	31.1	30.7
⑦魚釣りをしたこと	550 (22.3)	28.2	18.2	31.4	12.9
⑧本を読んで	529 (21.5)	23.0	20.4	21.4	21.5
⑨動物と仲良くできたこと	462 (18.7)	23.9	15.0	14.9	22.5
⑩音楽を聴いて	391 (15.9)	10.9	19.3	15.0	16.7
	2466 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

③「とても美しい」と思ったこと

ここでは、「美しい景色を見たこと」81.5%、「流れ星や空一面の星を見たこと」74.1%、「日の出日の入りを見たこと」52.4%と、自然の風景や景色に関する項目の選択率が上位3つを占めていることがわかる。これらは、「映画・ドラマを見て」や他の項目を大きく引き離しており、「美しさ」を自然の中に見出していることがよくわかる。

また、小中学生や男女の別の差はほとんど見られないが、「流れ星や空一面の星を見たこと」についてのみ男子よりも女子の方が10.7ポイント高いのがその違いと言えよう。

表21 「とても美しい」と思ったこと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①美しい景色を見たこと	1885 (81.5)	84.3	79.4	79.1	83.9
②流れ星や空一面の星を見たこと	1715 (74.1)	75.6	73.1	68.7	79.4
③日の出・日の入りを見たこと	1213 (52.4)	52.3	52.5	54.1	50.7
④映画・ドラマを見て	313 (13.5)	14.2	13.0	13.7	13.4
⑤音楽を聴いて	268 (11.6)	14.7	9.3	11.1	12.1
⑥新しいものや珍しいものを発見したこと	198 (8.6)	11.0	6.8	9.3	7.8
⑦本を読んで	100 (4.3)	5.2	3.7	5.1	3.5
⑧人から優しくしてもらったこと	81 (3.5)	3.5	3.5	4.3	2.7
⑨ペットが子どもを生んだこと	80 (3.5)	3.3	3.6	3.6	3.4
⑩漫画・アニメを見て	73 (3.2)	3.5	2.9	3.5	2.8
	2314 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

④「とてもジーンときた」こと

「ジーンときたこと」については、「映画・ドラマを見て」60.0%が最も多く、次の「卒業式」26.6%以下の項目に大きな差をつけていることから、最近の子どもたちには「映画・ドラマ」

表22 「とてもジーンときた」こと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①映画・ドラマを見て	1326 (60.0)	55.2	63.2	54.9	64.8
②卒業式	588 (26.6)	15.4	34.0	20.8	32.1
③本を読んで	489 (22.1)	25.2	20.1	17.7	26.3
④音楽を聴いて	436 (19.7)	17.2	21.4	16.8	22.5
⑤漫画・アニメを見て	408 (18.5)	18.5	18.5	15.8	21.0
⑥友だちと別れたこと	320 (14.5)	14.9	14.2	15.0	14.0
⑦人から優しくしてもらったこと	316 (14.3)	10.6	16.7	11.1	17.3
⑧先生との別れ	206 (9.3)	10.6	8.5	8.8	9.8
⑨流れ星や空一面の星を見たこと	202 (9.1)	8.0	9.9	8.3	9.9
⑩試合に勝ったこと	177 (8.0)	6.4	9.1	7.2	8.8
	2209 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

が大きく影響していることがわかる。

この内訳をみていくと、「映画・ドラマ」では、小学生 55.2 %、中学生 63.2 %と中学生が 8 ポイント、男子よりも女子 9.9 ポイント高くなっているのである。

第 2 位の「卒業式」では、小学生 15.4 %、中学生 34.0 %となり中学生が小学生に比べて 18.6 ポイント高くなっているが、これは小学 5 年生が自らの卒業式を経験していないためと思われる。また、男子 20.8 %、女子は 32.1 %となり、女子はおよそ 3 人にひとりが、男子はおよそ 5 人にひとりが卒業式に「ジーンとした」と回答しているのである。

ここでは、自然体験に関する項目の「流れ星や空一面の星をみたこと」の 9.1 %が 9 位に入っているに過ぎないのである。

⑤「とてもワクワクした」こと

「ワクワクしたこと」に関して、全体では「修学旅行や校外学習など」39.4 %、「家族で旅行に行ったこと」27.9 %、「友だちと一緒に寝泊まりをしたこと」25.9 %と、旅行に関するような項目の選択率が上位 3 位に並んでいる。

なかでも「修学旅行や校外学習など」については、小学生 27.6 %、中学生 47.6 %と中学生の選択率が圧倒的に高く、また男子では 32.9 %、女子は 46.0 %と女子の比率が高くなっていることがわかる。

また、「家族で旅行に行ったこと」では、小学生 32.2 %、中学生 25.0 %と小学生の方が高く、性別では、男子 23.6 %、女子 32.3 %と女子の方が高いことがわかる。

さらに、「友だちと一緒に寝泊まりしたこと」については、小学生 26.4 %、中学生 25.6 %とこの間にほとんど差が見られないが、男女別には、男子 19.4 %、女子 32.5 %と圧倒的に女子

表 23 「とてもワクワクした」こと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①修学旅行や校外学習など	900 (39.4)	27.6	47.6	32.9	46.0
②家族で旅行に行ったこと	638 (27.9)	32.2	25.0	23.6	32.3
③友だちと一緒に寝泊まりをしたこと	592 (25.9)	26.4	25.6	19.4	32.5
④入学式	563 (24.7)	21.3	27.0	22.4	27.0
⑤新しいものや珍しいものを発見したこと	458 (20.1)	18.9	20.9	18.9	21.3
⑥映画・ドラマを見て	405 (17.7)	16.8	18.4	19.0	16.4
⑦テレビゲームで	361 (15.8)	16.4	15.4	22.3	9.2
⑧漫画・アニメを見て	354 (15.5)	17.1	14.4	16.3	14.7
⑨本を読んで	310 (13.6)	15.9	12.0	13.1	13.9
⑩新しい友だちができたこと	304 (13.3)	15.7	11.7	9.4	17.2
	2283 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

の方が高くなっているのである。

⑥「とても涙が出た」こと

ここでは「とても涙が出たこと」についての質問では、全体では「映画・ドラマを見て」38.1%，「ペットの死」36.7%，「家族や親せきの人の死」35.5%，「友だちと別れたこと」31.4%の4項目が30%以上の上位を占め、「死」と「別れ」がその中心であることがわかる。この「映画・ドラマを見て」が第1位となっているのは、前項の「とてもジーンときた」ことと同じであるが、ただその比率は前者の60.0%に対して、ここでは38.1%とその差に開きがある。この内訳は、小学生よりも中学生が、また男子よりも女子の比率が高くなっているのである。

また、「友だちと別れたこと」「友だちに裏切られたこと」の2項目については、それぞれ女子の方が男子より12.4ポイント、10.5ポイント高く、友だち関係は女子の方が敏感と言えるような結果となった。

さらに「卒業式」については、中学生と小学生には17.4ポイントの差があるが、これは前項でも指摘したように、卒業式の直接経験がないことが影響しているものと思われる。

表24 「とても涙が出た」こと（MA）

	件数（%）	小学生	中学生	男 子	女 子
①映画・ドラマを見て	825 (38.1)	35.4	40.0	31.6	44.0
②ペットの死	794 (36.7)	41.8	33.3	33.5	39.5
③家族や親せきの人の死	768 (35.5)	39.7	32.7	37.6	33.7
④友だちと別れたこと	680 (31.4)	34.3	29.5	26.1	36.3
⑤卒業式	437 (20.2)	9.8	27.2	14.7	25.1
⑥試合に負けたこと	427 (19.7)	14.5	23.3	20.2	19.4
⑦先生との別れ	399 (18.4)	21.4	16.4	15.9	20.8
⑧人にバカにされたこと	375 (17.3)	24.0	12.8	16.6	18.0
⑨友だちに裏切られたこと	348 (16.1)	17.6	15.1	10.6	21.1
⑩本を読んで	265 (12.3)	12.7	11.9	9.7	14.5
	2163 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

⑦「とても胸がいっぱいになった」こと

ここでも「映画・ドラマを見て」「卒業式」「人から優しくしてもらったこと」がベスト3となっているが、全体的には他の調査項目ほど数値が高くないことがわかる。特に、自然・生活体験に関する項目は、上位10項目の中には入っていないのである。

表 25 「とても胸がいっぱいになった」こと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①映画・ドラマを見て	336 (18.4)	15.7	20.1	16.3	20.2
②卒業式	318 (17.4)	8.5	23.0	15.7	18.9
③人から優しくしてもらったこと	265 (14.5)	13.0	15.4	12.0	16.7
④試合に勝ったこと	241 (13.2)	11.5	14.3	14.8	11.9
⑤友だちと別れたこと	240 (13.1)	13.2	13.1	12.0	14.1
⑥賞をとったこと	202 (11.1)	12.6	10.1	10.2	11.9
⑦今まででできなかったことができたこと	187 (10.2)	13.3	8.3	10.9	9.6
⑧人を傷つけるようなことを言ったこと	170 (9.3)	9.5	9.2	8.4	10.1
⑨本を読んで	169 (9.3)	11.6	7.8	6.6	11.6
⑩人にほめられたこと	167 (9.1)	10.5	8.3	8.7	9.4
	1826 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

⑧「とてもくやしい」と思ったこと

次に、「とてもくやしいと思ったこと」については、「試合に負けたこと」「人にバカにされたこと」「友だちに裏切られたこと」「人から注意を受けたこと」が上位を占めていることがわかる。特に、小中学生別、男女別を問わず、「試合に負けたこと」の項目をおよそ7割の子どもたちが選んでおり、その他の項目を大きく引き離しているのである。

また、「人にバカにされたこと」「友だちから裏切られたこと」の項目についてみると、中学生に比べて小学生が10ポイント高く、男子に比べて女子が5.1ポイント高くなっているのである。

さらに、「人から注意を受けたこと」では、小中学生別、男女別には大きな差は見られなかった。

表 26 「とてもくやしい」と思ったこと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①試合に負けたこと	1670 (71.9)	69.0	74.0	72.9	70.9
②人にバカにされたこと	1384 (59.6)	65.4	55.5	57.0	62.1
③友だちに裏切られたこと	969 (41.7)	47.2	37.9	37.1	46.4
④人から注意を受けたこと	562 (24.2)	22.3	25.5	23.2	25.2
⑤人を傷つけるようなことを言ったこと	215 (9.3)	8.2	10.0	7.3	11.3
⑥テレビゲームで	213 (9.2)	11.4	7.6	11.0	7.3
⑦ペットの死	148 (6.4)	6.5	6.3	5.5	7.2
⑧友だちと別れたこと	106 (4.6)	4.7	4.5	5.2	3.9
⑨家族や親せきの人の死	86 (3.7)	3.8	3.7	3.2	4.3
⑩先生との別れ	57 (2.5)	2.3	2.6	2.6	2.3
	2322 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

⑨「とても苦しい」と思ったこと

さらに「とても苦しいと思ったこと」で比率の高いものが「人を傷つけるようなことを言ったこと」36.7%、「友だちに裏切られたこと」29.7%、「人にバカにされたこと」29.2%、「家族や親戚の死」23.0%、「友だちと別れたこと」21.8%などであり、人間関係に関する内容が上位に位置していることがわかる。また、これらの5項目については、男子よりも女子の比率が高いことが特徴となっている。

そして、「人を傷つけるようなことを言ったこと」は女子の42.0%が選択しており、自分の言動を気にして、友人関係に気を使う姿が浮き上がってきているのである。

表27 「とても苦しい」と思ったこと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①人を傷つけるようなことを言ったこと	606 (36.7)	34.1	38.3	29.8	42.9
②友だちに裏切られたこと	490 (29.7)	24.2	33.0	22.2	36.3
③人にバカにされたこと	482 (29.2)	25.4	31.5	26.2	31.9
④家族や親せきの人の死	380 (23.0)	27.5	20.4	22.2	23.7
⑤友だちと別れたこと	360 (21.8)	21.8	21.9	20.5	22.8
⑥ペットの死	351 (21.3)	27.2	17.8	19.8	22.5
⑦家族の病気やケガ	290 (17.6)	22.9	14.4	18.7	16.6
⑧試合に負けたこと	223 (13.5)	10.4	15.4	13.8	13.3
⑨人から注意を受けたこと	217 (13.2)	10.1	15.0	14.4	12.1
⑩先生との別れ	190 (11.5)	14.0	10.1	11.6	11.4
	1649 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

⑩「とても悲しい」と思ったこと

この項では「とても悲しいと思ったこと」であるが、その結果は、「家族や親せきの人の死」が最も多く53.1%、以下、「ペットの死」50.6%、「友だちと別れたこと」45.7%、「先生との別れ」27.9%などの「死」や「別れ」と続いている。

また、「友だちに裏切られたこと」21.21%、「人にバカにされたこと」17.5%、「人を傷つけるようなことを言ったこと」9.3%など、前項の「とても苦しいと思ったこと」と同様の傾向が見られた。

このことは、「死」「別れ」とは別に、比率がそんなに高くはないものの対人関係に関する内容が相当の影響を子どもたちに与えていることがわかる。

表28 「とても悲しい」と思ったこと (MA)

	件数 (%)	小学生	中学生	男 子	女 子
①家族や親せきの人の死	1199 (53.1)	54.6	52.0	54.6	51.6
②ペットの死	1142 (50.6)	58.4	45.1	47.9	53.1
③友だちと別れたこと	1032 (45.7)	49.4	43.1	40.5	50.6
④先生との別れ	631 (27.9)	33.3	24.2	24.2	31.5
⑤家族の病気やケガ	531 (23.5)	27.0	21.0	22.0	25.0
⑥友だちに裏切られたこと	479 (21.2)	17.2	24.0	14.4	27.9
⑦人にバカにされたこと	395 (17.5)	18.0	17.1	15.0	19.9
⑧卒業式	244 (10.8)	7.3	13.2	7.5	13.9
⑨試合に負けたこと	241 (10.7)	8.7	12.0	12.0	9.4
⑩人を傷つけるようなことを言ったこと	210 (9.3)	7.3	10.7	6.5	12.0
	2259 (100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0

調査のまとめと今後の課題

今回、子どもたちの生活の状況や活動体験、感動体験に関する調査を行い、その実状についてはこれまで述べてきたとおりである。その結果、子どもたちの体験の不足が指摘されるとともに、「諸活動との関連性」から見ていくと、地域活動に参加している子どもたちが当然のこととして多くの経験をしており、このことと比例して体験の豊かな子どもの方が感動体験の率が高くなることが指摘できるのである。以下、課題と問題点を挙げておきたい。

- ①子どもたちの「楽しい」「うれしい」「悲しい」「悔しい」などの情緒的な調査内容を見ると、友だち関係が大きく影響しかつ重要であるかがわかる。

そこで、今後の取り組みとしては、仲たがいのあとの処理、悩みの相談相手との信頼関係や付き合い方、友だちづくり、異年齢との触れ合い、などに関してその実情を把握する必要がある。

- ②子どもたちの体験活動と感動との因果関係があることが想像できることから、今後は子どもたちの体験が、保護者、教師、子ども自身、友だちなど誰の影響によることが多いのかなどについての把握が必要になってくる。

今後も時間的な経過や経験の度合いなどの点も含めて、今回の調査結果の分析を継続して行うとともに、新たな視点から調査研究を行ってみたいと考えている。